

製品名: GNL1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11560**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	69kDa

抗原情報

遺伝子名	GNL1
別名	GNL1; HSR1; Guanine nucleotide-binding protein-like 1; GTP-binding protein HSR1
遺伝子 ID	2794.0
SwissProt ID	P36915
免疫原	抗血清はヒト GNL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

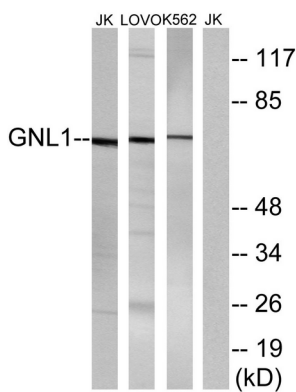
ヒト主要組織適合遺伝子複合体クラス I 領域に同定された GNL1 遺伝子は、マウスの GNL1 遺伝子と高い相同性を示す。GNL1 遺伝子は HLA-E の 2kb 未満のセントロメア側に位置し、同じ転写方向にある。GNL1 は HLA-B および HLA-C のテロメア側に位置する。

[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: 他の GTP 結合タンパク質とは対照的に、このファミリーは G4-G1-G3 パターンで表される GTPase モチーフの円順列を特徴とする。機能: 組織適合遺伝子クラスターとの調節的または機能的な関連が考えられる。PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。類似性: MMR1/HSR1 GTP 結合タンパク質ファミリーに属する。

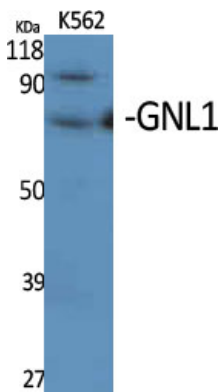
研究分野

-

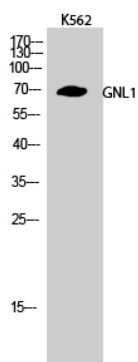
画像データ



GNL1 抗体を用いた Jurkat 細胞、LOVO 細胞、K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GNL1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



GNL1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析